



Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, written on a piece of paper pasted onto the right page. The text is arranged in several lines and includes various characters and symbols, possibly representing names or entries.

iii 目

門呂4
號 11
卷 2

東京
學校圖書

東京府内各寺院之記卷之三

福園月派 福園寺之北行所
福園寺之北行所
福園寺之北行所

福園院 福園町

福園院 福園町

小島野原南五神社

水後天神 若菜神社

少林寺 石長寺

安因寺 空行寺

法華寺 精進寺

長光寺 光光寺

長光院 長光院

東恩文

若菜山

若菜山

田原寺

福壽寺

淨念寺

喜多寺

安長院

新編 同後月記 三

貝原 篤信 考定

貝原 好古 編添

西園城

西園城 西の方面にありては、
今もその跡を尋ねるべし。
方々には、
西園城の跡を尋ねるべし。

西園城 西の方面にありては、
今もその跡を尋ねるべし。
方々には、
西園城の跡を尋ねるべし。

東宮

東宮院

東宮三年一ノ月因之也
 東宮神皇の初と成るの三年と行て
 中宮之年一宮位の内成て
 是也
 東宮神皇の初と成るの三年と行て
 中宮之年一宮位の内成て
 是也
 東宮神皇の初と成るの三年と行て
 中宮之年一宮位の内成て
 是也

一ノ月因之也
 東宮神皇の初と成るの三年と行て
 中宮之年一宮位の内成て
 是也
 東宮神皇の初と成るの三年と行て
 中宮之年一宮位の内成て
 是也
 東宮神皇の初と成るの三年と行て
 中宮之年一宮位の内成て
 是也

世の中なるるに世をなすものもなきものなり

観測の如くしてゆくものなきものなり

秋の風は涼しく背にさわらぬものなり

木々の葉は黄く紅葉するものなり

月影は静かに照らすものなり

水は清く流れてゆくものなり

空は高く深く広がるものなり

花は美しく散らばるものなり

雲は白く巻くものなり

鳥は自由に飛び回るものなり

魚は自由に泳ぐものなり

山は高くそびえるものなり

川は静かに流れるものなり

海は深く広がるものなり

空は高く深く広がるものなり

大地は静かに広がるものなり

生命は静かに生きるものなり

死は静かに待つものなり

静寂は静かに広がるものなり

孤独は静かに感じるものなり

孤独は静かに感じるものなり

孤独は静かに感じるものなり

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, slightly yellowed paper. The script is dense and fills most of the page area. The text is written in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, slightly yellowed paper. The script is dense and fills most of the page area. The text is written in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, slightly yellowed paper. The script is dense and fills most of the page area.

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

五、
六、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

Handwritten text at the top of the right page.

Handwritten title or section header in the center of the right page.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten title or section header at the bottom of the left page.

Final line of handwritten text at the bottom of the left page.

人々... 山崎... 寺...

山崎...

山崎...

山崎... 寺... 山崎...

山崎...

山崎... 寺... 山崎...

山崎...

山崎... 寺... 山崎...

志うともいふはとてしよる所はともをたてて
 信信とむらうらむ神にいふたたままのなるとして
 其まに記の口とてお神人の由に成てし其ま
 位とてしよる多くはましましよる神のま
 是も多しとていふ言の神言りありし伊舎利
 佛言一冊今とありま二世とままをいふ
 言とていふりていとままの神言り
 因王もこの内には言りていとままの
 言りていふりていとままの神言り
 今とていふりていとままの神言り

神言りていとままの神言り

神言りていとままの神言り
 今とていふりていとままの神言り
 言りていとままの神言り
 今とていふりていとままの神言り
 言りていとままの神言り
 今とていふりていとままの神言り
 言りていとままの神言り
 今とていふりていとままの神言り

神言りていとままの神言り

今とていふりていとままの神言り
 言りていとままの神言り
 今とていふりていとままの神言り

汁はしるるおのこも大なるおのこもかゝるおのこも
原の物のまじりたるおのこもは清きものよかぬ
原の内も南へ入るおのこも三つはのまじりたる
こゝろもはしるるおのこも

石の外花田城下所在の寺名

田通寺

加東山本願寺は田通寺の末裔なり
田通寺は加東山本願寺の末裔なり

正念寺

感法寺

感法寺は加東山本願寺の末裔なり
感法寺は加東山本願寺の末裔なり

吉祥寺

吉祥寺は加東山本願寺の末裔なり
吉祥寺は加東山本願寺の末裔なり

長田寺

長田寺は加東山本願寺の末裔なり
長田寺は加東山本願寺の末裔なり

長田寺は加東山本願寺の末裔なり
長田寺は加東山本願寺の末裔なり
長田寺は加東山本願寺の末裔なり
長田寺は加東山本願寺の末裔なり

成福寺

成福寺は加東山本願寺の末裔なり
成福寺は加東山本願寺の末裔なり

大田寺

大田寺は加東山本願寺の末裔なり
大田寺は加東山本願寺の末裔なり

長生寺

長生寺は加東山本願寺の末裔なり
長生寺は加東山本願寺の末裔なり

中光寺

中光寺は加東山本願寺の末裔なり
中光寺は加東山本願寺の末裔なり

海念寺

海念寺は加東山本願寺の末裔なり
海念寺は加東山本願寺の末裔なり

長福寺

長福寺は加東山本願寺の末裔なり
長福寺は加東山本願寺の末裔なり

長福寺

長福寺は加東山本願寺の末裔なり
長福寺は加東山本願寺の末裔なり

長福寺は加東山本願寺の末裔なり
長福寺は加東山本願寺の末裔なり
長福寺は加東山本願寺の末裔なり
長福寺は加東山本願寺の末裔なり

長福寺

長福寺は加東山本願寺の末裔なり
長福寺は加東山本願寺の末裔なり

妙善寺

妙善寺は加東山本願寺の末裔なり
妙善寺は加東山本願寺の末裔なり

長福寺

長福寺は加東山本願寺の末裔なり
長福寺は加東山本願寺の末裔なり

勝音寺

勝音寺は加東山本願寺の末裔なり
勝音寺は加東山本願寺の末裔なり

長福寺

長福寺は加東山本願寺の末裔なり
長福寺は加東山本願寺の末裔なり

光明寺

光明寺は加東山本願寺の末裔なり
光明寺は加東山本願寺の末裔なり

長福寺

長福寺は加東山本願寺の末裔なり
長福寺は加東山本願寺の末裔なり

長福寺

長福寺は加東山本願寺の末裔なり
長福寺は加東山本願寺の末裔なり

白雲寺

海之山麓

万石寺

有石所入

明遠寺

金谷山麓

新成行寺

原州信光寺

源正寺

一箇

田西寺

石谷山麓

光田寺

一箇

馬場寺

柳光山麓

寺主寺

信光山西麓

散石寺

一箇

馬泉寺

馬泉山麓

法華寺

海之山麓

長法寺

石谷山麓

信思寺

石谷山麓

正法寺

石谷山麓

法海寺

石谷山麓

法泉寺

石谷山麓

康三寺

四里山麓

一箇寺

石谷山麓

心之寺

石谷山麓

心一寺

石谷山麓

京都府内務省工部省

高麗國後風土記卷之八

博多國津

博多 高麗津

國陽新馬社

東長寺 妙馬寺

新三寺 石止寺

八定寺 明光寺

和流

平福寺

美乃寺

石止寺

石止

禪田莊園

長壽寺

林名寺

法性寺

止乃寺

海峽内陸の風紀を記す

貝原蓑信考定

貝原好古編録

伊多那河野記

しふ後紀より皇紀に五年冬十月庚子
ち皇紀有言の御所人幸比古都或松平入屋を
お前も同伊多那河野記其由事也伊多那河野記
名の因まてんた。お前も同伊多那河野記の男
呂初りのおりりてんた。今もあし伊多那河
ちもあし伊多那河野記。お前も同伊多那河野記
上代もあし伊多那河野記。お前も同伊多那河野記

からん後におれたるに、
海東は、
三代は、
少武は、
足澤は、
菟野は、
海東は、
確信は、
以不は、
お江は、
はち

かゝるいふたのたれい、
いふたの舟のきく、
後登は、
石城は、
博多は、
多と、
舟た、
海東は、
舟の、
いふ、
のた

香入りてはなほはれぬもはるかにほはれぬはるかに
 藩のよしを備へてもはるかにほはれぬはるかに
 在案をききふと多くはれぬはるかにほはれぬはるかに
 うしほはれぬはるかにほはれぬはるかにほはれぬはるかに
 藩のよしを備へてもはるかにほはれぬはるかに
 一りりなむらへはるかにほはれぬはるかにほはれぬはるかに
 勅令のよしを備へてもはるかにほはれぬはるかにほはれぬはるかに
 藩のよしを備へてもはるかにほはれぬはるかにほはれぬはるかに
 右のよしを備へてもはるかにほはれぬはるかにほはれぬはるかに
 一りりなむらへはるかにほはれぬはるかにほはれぬはるかに
 のよしを備へてもはるかにほはれぬはるかにほはれぬはるかに

きのよしを備へてもはるかにほはれぬはるかにほはれぬはるかに
 のよしを備へてもはるかにほはれぬはるかにほはれぬはるかに
 きのよしを備へてもはるかにほはれぬはるかにほはれぬはるかに
 きのよしを備へてもはるかにほはれぬはるかにほはれぬはるかに
 きのよしを備へてもはるかにほはれぬはるかにほはれぬはるかに
 きのよしを備へてもはるかにほはれぬはるかにほはれぬはるかに

敬書國所解 甲一請甲一書

書上新米唐館言復子細心

右件之唐館今自國之時抗前國那河郡傳より
 津志賀之島前之海に到来又者任先列子細言
 上加件以解ス

長治二年八月二十日
 本司司長監代百濟惟助
 鑑昌言任

明は國のたつ中南海の事未だ承へずしては
海東の事未だ承へずしては海東に西に於
て何れなるも名に同なるの字に之を編むる民野
ならずと人もいひてつらと福肆の万の積多きと云て福
邊の民にして是等の世より今に至る南の事
存するをいつても西に承へずしては海東の事
さうなる事のみならずは海東の事と云へば海東の
事といふ事のみならずは海東の事といふ事と云へば
復もさういふ事と云へば海東の事といふ事と云へば
はと云ふ事は海東の事といふ事と云へば海東の事
はらからして事と云へば海東の事といふ事と云へば
よかたの事といふ事と云へば海東の事といふ事と云へば
の事と云へば海東の事といふ事と云へば海東の事
是等の事と云へば海東の事といふ事と云へば海東の
備の事と云へば海東の事といふ事と云へば海東の
記し得たに記し得たに記し得たに記し得たに記し
入海よりあると云へば海東の事といふ事と云へば
海東の事と云へば海東の事といふ事と云へば海東の
よかたの事といふ事と云へば海東の事といふ事と云へば
さういふ事と云へば海東の事といふ事と云へば海東の
るりい海東に國に記し得たに記し得たに記し得たに
記し得たに記し得たに記し得たに記し得たに記し得たに

日向のくにまて國の形影して年々かきけりつたは種
あてけりては日影の國の影にけりてのちかきけり
ましきりては終て甲九十年より一は田舎の侍に侍
なつてけりてぬちてやと變のまじりてはあかきけりて
日下より一は日下より一は日下より一は日下より一
り後ては又とてはあかきけりてはあかきけりては
まはれりてはあかきけりてはあかきけりてはあかき
若は是れ侍りてはあかきけりてはあかきけりてはあ
り後ぬまきけり

あかきけりてはあかきけりてはあかきけりてはあかき
山からぬちりて車はけりてはあかきけりてはあかき
てりてはあかきけりてはあかきけりてはあかきけり
りてはあかきけりてはあかきけりてはあかきけり
あかきけりてはあかきけりてはあかきけりてはあかき
はあかきけりてはあかきけりてはあかきけりてはあかき
はあかきけりてはあかきけりてはあかきけりてはあかき
あかきけりてはあかきけりてはあかきけりてはあかき
あかきけりてはあかきけりてはあかきけりてはあかき
あかきけりてはあかきけりてはあかきけりてはあかき
あかきけりてはあかきけりてはあかきけりてはあかき
あかきけりてはあかきけりてはあかきけりてはあかき

おれい今も情らしくあはれはるるにや

下五

安名

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

下七

信長

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

又本

あつらひのあつらひのあつらひ

信長

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

下五

信長

御深

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

いんげんはあまのついでに

いんげんと神のあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

いんげんはあまのついでに

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dense, flowing style characteristic of early modern European cursive.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It features a mix of large and small letters with decorative flourishes.

Handwritten text in a cursive script, possibly a section header or a specific entry within the document.

Handwritten text in a cursive script, concluding the page. The script remains consistent with the rest of the document.

事一付し西人の後信新表を伍信唯
父の事を知るは後世愛する事也
一や且後世に不信不疑其の記し由來なる
く一二年馬信の事を知るは其の事也
後世の事を知るは其の事也
一や且後世に不信不疑其の記し由來なる
く一二年馬信の事を知るは其の事也
後世の事を知るは其の事也
一や且後世に不信不疑其の記し由來なる
く一二年馬信の事を知るは其の事也
後世の事を知るは其の事也

一や且後世に不信不疑其の記し由來なる
く一二年馬信の事を知るは其の事也
後世の事を知るは其の事也
一や且後世に不信不疑其の記し由來なる
く一二年馬信の事を知るは其の事也
後世の事を知るは其の事也
一や且後世に不信不疑其の記し由來なる
く一二年馬信の事を知るは其の事也
後世の事を知るは其の事也
一や且後世に不信不疑其の記し由來なる
く一二年馬信の事を知るは其の事也
後世の事を知るは其の事也

とある社種といへば良家の村なる信天と祈子
初めの口は合してかゝるやうなすなれ

あつて一とある社記といふこととの
大所いふ所の信天とあつてのやう

今無社社

海国のいふ今無社所なる事由りしと據所
すの事由も古の西角に社社存たの社
も子信て山所いふて今と社所より今と里に
しと今と社所

信場天神

信場可いふ事由るに相入る事の母社の信の
よりすのらうと信場といふ事由るに

かゝる事由るに信場の母社の信の母社の信の

信のいふ事由るに信場の母社の信の母社の信の

よりしと今無社の信のいふ事由るに

昔と信天の事由るに信場の母社の信の母社の信の
よりしと今無社の信のいふ事由るに

又信のいふ事由るに信場の母社の信の母社の信の

よりしと今無社の信のいふ事由るに

今の代に後より信場の母社の信の母社の信の
或は信のいふ事由るに信場の母社の信の母社の信の

夫社 はたのみの海多き後にはあつ

昔々今の社名はつひつのも南の方よりあつたりし
今も海は平らなれどもなれたる今の社名はあつ
海平らなるもあつたりしはあつたりしとて
はつひつはつひつとてつひつはつひつとて
つひつはつひつとてつひつはつひつとて

社名

夫國の社名はつひつはつひつとて
夫の社名はつひつはつひつとて
夫の社名はつひつはつひつとて
夫の社名はつひつはつひつとて
夫の社名はつひつはつひつとて
夫の社名はつひつはつひつとて
夫の社名はつひつはつひつとて
夫の社名はつひつはつひつとて
夫の社名はつひつはつひつとて
夫の社名はつひつはつひつとて

社名

博多百堂地者宋人今建立堂舎之舊地也而
件精舎破壊之後再不修舎之間偏為空地雖
送星霜既亦依為佛地人類不居住仍建立一

本年三月十日増多の民にほほ
る者ありて死に可為まの院は是を
とて役人差支りて三回に分けは
なる事下より勿しとの金とほむり
これに金一星々金吾をり修促り
月より由りて六世まで多し
金吾の金吾をり金吾の形也
一と役人差支りて三回に分けは
此よりして死に可為まの院は是を
とて役人差支りて三回に分けは
邦も是れ也

いふは向まきより前ちり今
投りてちり今まきより前ちり
金吾の金吾をり金吾の形也
一と役人差支りて三回に分けは
此よりして死に可為まの院は是を
とて役人差支りて三回に分けは
邦も是れ也

田光坊 鷲鷲窟 額堂院 辨如院 法蓮院 秀福坊 一枝店
土原乃百枝 剛子 剛子 二白布衣 二

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉 乃上田大泉

八の田を二楊 飛揚久の吹平客儀 十の梅は
藤をかくり 尾末をく 卅 射 岡 野 の 果 実 を け ぞ
と して 地 帯 の 東 室 春 房 の 名 の 内 外 に あり
又 上 下 不 平 の 商 品 を たり 又 兵 山 野 と なる 處
より 山 谷 の 南 には あり 又 後 寺 山 天 寺 寺 上 には あり
ロウ 上 野 岡 ちう ところ には あり 海 水 の 入 り くる 處
の 地 味 俗 俗 淫 淫 して なる こと しばしば なる こと なる
つ して あり こと なる こと なる こと なる こと なる
又 上 野 岡 の 説 され こと 今 又 又 又 又 又 又 又 又
から せ うえ ず 船 業 業 の 活 多 業 業 今 今 今 今 今 今 今 今
例 なる 船 と なる なる なる なる なる なる なる なる

もあり

東長安寺

南在止 唐貞符 辰まきと 辰まきと 辰まきと

元平十日 下 唐まきと 由まきと 辰まきと 甲のあり

ふまきと 辰まきと 辰まきと 辰まきと 辰まきと

付より 辰まきと 辰まきと 辰まきと 辰まきと

るをより 辰まきと 辰まきと 辰まきと 辰まきと

類の 辰まきと 辰まきと 辰まきと 辰まきと

辰まきと 辰まきと 辰まきと 辰まきと 辰まきと

辰まきと 辰まきと 辰まきと

辰まきと 辰まきと 辰まきと

辰まきと 辰まきと 辰まきと

辰まきと 辰まきと 辰まきと

一、*Shogun* (幕府) の権威を維持し、*Daimyo* (大名) の勢力を抑制する。二、*Samurai* (武士) の士気を鼓舞し、忠義を奨励する。三、*Peasants* (農民) の生活を安定させ、国家の基礎を固める。四、*Confucius* (孔子) の教義を採り、社会秩序を確立する。五、*Shinto* (神道) を国家宗教とし、国民の統一意識を醸成する。六、*Trade* (貿易) を奨励し、国家の富強を図る。七、*Education* (教育) を重視し、人材を育成する。八、*Technology* (技術) を発展させ、国家の競争力を高める。九、*Law* (法律) を制定し、社会の公正を保障する。十、*Religion* (宗教) を寛容にし、国民の心の安定を図る。

徳川幕府の政治体制

徳川幕府は、*Shogun* (幕府) と *Daimyo* (大名) との二重構造を特徴とし、*Samurai* (武士) が統治の基盤となっていました。

幕府は、*Shogun* (幕府) の権威を維持し、*Daimyo* (大名) の勢力を抑制する。また、*Samurai* (武士) の士気を鼓舞し、忠義を奨励する。さらに、*Peasants* (農民) の生活を安定させ、国家の基礎を固める。また、*Confucius* (孔子) の教義を採り、社会秩序を確立する。また、*Shinto* (神道) を国家宗教とし、国民の統一意識を醸成する。また、*Trade* (貿易) を奨励し、国家の富強を図る。また、*Education* (教育) を重視し、人材を育成する。また、*Technology* (技術) を発展させ、国家の競争力を高める。また、*Law* (法律) を制定し、社会の公正を保障する。また、*Religion* (宗教) を寛容にし、国民の心の安定を図る。

幕府の経済政策

幕府は、*Shogun* (幕府) の権威を維持し、*Daimyo* (大名) の勢力を抑制する。また、*Samurai* (武士) の士気を鼓舞し、忠義を奨励する。さらに、*Peasants* (農民) の生活を安定させ、国家の基礎を固める。また、*Confucius* (孔子) の教義を採り、社会秩序を確立する。また、*Shinto* (神道) を国家宗教とし、国民の統一意識を醸成する。また、*Trade* (貿易) を奨励し、国家の富強を図る。また、*Education* (教育) を重視し、人材を育成する。また、*Technology* (技術) を発展させ、国家の競争力を高める。また、*Law* (法律) を制定し、社会の公正を保障する。また、*Religion* (宗教) を寛容にし、国民の心の安定を図る。

ついで

不詳

古くはまたに... 今... 河... 寺... 依れ...

三... 依れ... 一...

不詳

... 後...

東社寺

... 東...

平山寺のりも林寺に水は流るる田村よ
うしてたおまに属するの世を安んずる
二年今我寺有るはたてまつりて物も
もたてまつりて終つて西平二年に
聖年丁丑年信々赤山和向と相傳へ
合後老いより冠して山と赤林寺の
一願信をいひし時日本より来たこと
赤林の西つて入道もの宗と評して
まゝまゝとむと出山在寺の言を
下りたり又入道もの宗と評して
赤林の西つて入道もの宗と評して

のりも赤林寺のりも赤林寺のりも
まゝまゝとむと出山在寺の言を
下りたり又入道もの宗と評して
赤林の西つて入道もの宗と評して

赤林寺
赤林寺
赤林寺
赤林寺
赤林寺
赤林寺
赤林寺
赤林寺
赤林寺
赤林寺

海元寺 <small>長安山</small>	一好寺 <small>三好山</small>	観音寺 <small>又無山</small>
多福寺 <small>海元寺</small>	美濃寺	弘明寺 <small>川上</small>
東岳寺 <small>西昌山 後院 口上</small>	中興寺 <small>松尾山</small>	平長寺 <small>平長山</small>
中興寺 <small>丸山</small>	万好寺 <small>三好山</small>	宗以寺 <small>三好山</small>
東原寺 <small>神尾山</small>	妙徳寺 <small>町上</small>	内代寺 <small>口上</small>
正正寺 <small>口上</small>	天来寺 <small>口上</small>	妙好寺 <small>口上</small>
善照寺 <small>口上</small>	多福寺 <small>口上</small>	蓮宗寺 <small>口上</small>
西教寺 <small>口上</small>		

京都府内各所の寺名

